

2015年
10月
第4号

元気das biz

ゲンキダス ビズ

発行日 / 2015年10月26日 (NO.030)
編集・発行所 / 株式会社 元気das biz 編集室
東京都港区東麻布2-32-8-5F
※内容に関するお問い合わせは ☎0120-505-715
生27-H-2723, 法人職域推進G

Pick of **今週のピックアップ**
this week

10月27日(火) 【米大リーグワールドシリーズ開幕】

ナショナルリーグとアメリカンリーグの優勝チーム同士による優勝決定戦。最大7試合で、7戦目までもつれば、最終戦は11月4日。

Word of **先週のひとこと**
last week

「夢の続きを全うすることができた」

(プロ野球・巨人の原辰徳監督が10月19日、退任を表明した記者会見で)

この日何があった?
10月28日 **パンダ来日**
1972 (昭和47) 年のこの日、中国から贈られたパンダのカンカン(雄)とランラン(雌)が来日。11月から東京の上野動物園で公開されると、多くの人々が訪れ、空前のパンダブームを巻き起こした。

Webサイトもご覧ください!
本紙のWebサイトへは右のQRコードか、下記urlでアクセスできます。
goo.gl/dy9uyH
QRコードは(株)デンソーウェアの登録商標です

飛躍の源泉 **立教大学 経済学部教授 (金融論) 山口 義行氏**

100年マンションの実現を

「柿渋」—これを塗ると「家」が長持ちするとして、江戸時代から塗装材料として使われてきた。東京都杉並区に本社を置く創業211年の老舗、ヤマ工業株式会社はこの「柿渋」を販売する問屋だったが、日本の「豊かさづくり」に貢献しようと、マンションやビルの再生リノベーションに取り組んでいる。

多額の住宅ローンを組んで、一生に一度の「買い物」をしても、住み始めれば建物は急速に価値を失っていく。ローンの支払いが重荷になって住宅を売っても、建物に借金を帳消しにするほどの価値がないため、ローンだけが

残る。ローンを完済しても、マンションの場合は「建て替え」でお金が必要になる。

そんな住宅の「貧困」を払拭すべく、同社は建物の診断と適切な改修を勧める。住めば住むほど価値を増す100年マンション「ヴィンテージ・マンション」の実現が同社の目標だ。

キーワードは「見える化」。科学的手法で建物の残存寿命を見える化し、改修後は50年間の長期修繕計画とそのため資金計画を策定して建物の未来を見える化する。耐震化、省エネ化、そして配管のメンテナンス・フリー化で、建物価値の引き上げとメンテナンス・コストの引き下げを実現する。日本を「豊か」に! —同社への期待は大きい。



私のOFF TIME

川端ネジ製作所
代表
川端 謙二 氏



週1回、自宅近くのコートでテニスをしています。始めたのは約15年前。メンバーは40歳代から80歳代まで、毎回20~30人は集まります。太陽のもとで汗をかく気持ち良さは格別。ストレス解消にもなるし、テニス後の食事やお酒も楽しみなんです。70歳、80歳になっても元気に続けている仲間の姿を見ると励みになるし、こちらが元気をもらえるくらい。私も、いつまでも続けていきたいですね。

日本の「借金」数字は **約1057兆円** 語る

(6月末時点の日本の「国の借金」)

財務省が発表した2015年6月末時点の「国の借金」(内国債と借入金と政府短期証券の合計)は1057兆2235億円で、2014年度末より3兆8000億円余り増加して、過去最高を更新した。単純平均すると、国民1人あたり830万円余の借金を背負っていることになる。「借金」の内訳は内国債約888兆円、借入金約54兆円、政府短期証券約115兆円。

増加する海外M&A

日本の問題

文=米山秀隆(富士通総研 上席主任研究員)

成功するかどうかは過去の事例でも明暗が分かれる。

速まってくると考えられる。ただ、企業は増え、海外展開のスピードは

今後海外M&Aに踏み切る日本企業は増え、海外展開のスピードは

第二に、企業収益が過去最高水準となる中、企業の手元資金が潤沢となり、その有効な活用を求められていることがある。近年は、キャッシュを遊ばせている企業に対する海外投資家や機関投資家の視線が厳しくなっている。すでに世界規模で事業展開している企業でも、新たな収益源を求め、海外M&Aを行うケースが目立っている。

日本企業による海外企業のM&Aが増加している。2015年1~9月の海外M&Aは約9.0兆円と、過去最高だった2006年(約8.6兆円)をすでに上回っている(レコフ調べ)。
海外M&Aは通常、円建ての買収金額が少なく済む円高局面で行うのが有利である。円安局面にもかかわらず海外M&Aが増えている背景としては、第一に、人口減少で国内マーケットが縮小する中、新たな需要を開拓するため、企業が海外展開を急いでいることがある。最近では食品、飲料など内需型産業の海外M&Aも増えている。

スポーツコラム 上原彩子の ツアー日誌

9月に日本に戻って以来、出場可能な国内大会に出ながらシーズン中にはあまりやらないぐらいのハードなトレーニングを続けています。2016年もアメリカツアーの大半の試合に出られますし、1月にはシーズンが始まるので、照準をそこに合わせているのです。今季は結果を残せず悔しい思いをしましたが、前を向いて頑張っていきたいと思います。

●お届けいたしましたのは



日本生命保険相互会社

NISSAY